



## 新しい年を迎えて

高山市議会議長 藤江 久子

市民の皆様におかれましては、平成30年の輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、高山の「山・鉾・屋台行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことによる記念事業として、4月に春と秋の高山祭屋台23台が55年ぶりに一堂に曳き揃えられました。また、秋には5年に1度の和牛のオリンピックといわれる「全国和牛能力共進会」が仙台市で開催され、高山市からも多くの飛騨牛が出品され、地元高校生が復興特別出品区で最優秀賞を受賞するなど、若い力の活躍が目立った年でありました。

観光面においても、引き続き好調なインバウンドに支えられ、観光客数が順調に推移するなか、高山駅舎や東西自由通路と一体的なデザインによる飛騨高山観光案内所が新しく整備され、伝統技術や魅力の発信拠点として、この春に完成予定の高山駅東口駅前広場とあわせて、国内外から多くの観光客を迎えるにふさわしい飛騨の玄関口となりました。加えて、国からは景観の優れた地域資源や外国人観光客を呼び込める観光資源を有している「景観まちづくり刷新モデル地区」に指定され、高山駅東口駅前や東西歩行者軸の整備等のまちなかの良好な景観創出につながる面的な整備が始まるなど、先行きの明るい年でもありました。

今年も、2月に全国高等学校総合体育大会スキー大会アルペン競技が、8月にアーチェリー競技が本市で開催され、地元出身選手の活躍が期待されるほか、米・食味分析鑑定コンクール国際大会も予定さ

れ、国内外から多くの皆様にお越しいただきます。豊かな自然にはぐくまれた飛騨牛や高品質米、地元野菜や果物をはじめとする食材を生かした料理、飛騨の地酒、伝統工芸や伝承芸能、豊かな温泉など多様な資源を活用しておもてなしの心でお客様を温かく迎え、世界にPRする絶好の機会としたいと考えています。

一方で、本市を取り巻く環境は、人口減少、少子高齢化、不安定な景気動向等、これまで以上に困難な、そして予測が難しい社会経済情勢のなかにあります。そうしたなか、景気対策や観光客の誘致は何のためにするのか。それは他でもない、市民が幸福になるためではないでしょうか。子育て支援の充実や、労働環境の改善、生活の安定、障がい児者等への支援、歳をとっても安心して暮らせる持続可能な地域づくりなどが求められています。

そのため、議会では、市民に開かれたわかりやすい議会に努めるとともに、二元代表制の一翼を担う議事機関として、また、まちづくりの責任ある意思決定機関としてその責務を果たすため、市民の声に耳を傾け、市民の意見を市政に反映するよう、調査研究や討議をはじめ議会機能を十分に発揮し、全力で取り組んでまいります。市民の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、皆様にとって健やかで幸せに満ちた一年となりますことを心からお祈り申し上げ、新年の挨拶とさせていただきます。